

漢法苞徳塾資料	No. 017
区分	診断・脈論
タイトル	温病論の脈論
著者	八木素萌
作成日	1991.01.20

◎『温病正宗』は「温病論」の脈論を総括的に、諸説の脈論を収載しているので、以下に訓読を試みる。

第三章 辨脈

一 辨脈提綱 時人呉錫璜

脈浮緊ニシテ悪寒スルモノ 之レヲ傷寒ト謂ウ 脈数ニシテ寒少ナク熱多キモノ 之レヲ温病ト謂ウ 脈緩ニシテ悪風スルモノ 之レヲ傷風ト謂ウ 脈盛ンニシテ熱壯ンナルモノ 之レヲ熱病ト謂ウ 脈虚シテ身熱アルモノ 之レヲ傷暑ト謂ウ 医タル者ハ辨ゼザルベカラズ。

二 温病辨脈 清楊栗山

凡ソ温病ノ脈ハ 浮ナラズ沈ナラズ 中ニ按ジテ洪・長・滑・数ニシテ 右手反ッテ左手ヨリ盛ンナリ 総テ佛熱ノ鬱滞ニ由リテ 脈中ニ結スルノ故ナリ 若シ左手脈ノ盛ンナレバ 或ハ浮ニシテ緊ナレバ 自ズカラ是レ感冒風寒ノ病ニシテ 温病ニハ非ザルナリ

凡ソ温病ノ脈 佛熱中ニ在リテ 多クハ肌肉ノ分ニ見ワレテ 浮甚ダシカラズ 若シ熱少陰ニ鬱スルトキハ 脈沈伏シテ絶エント欲スルモ 陰脈ニハ非ザルナリ 陽邪ノ脈ヲ閉ザスナリ

凡ソ 傷寒ハ外ヨリ内ニ之キテ 気分ヨリ入ル 始メニ病発熱悪寒ス 一二日ハ煩渴ヲ作サズ 脈多クハ浮緊 三陰ニ伝ワラズバ 脈ハ沈ヲ見ワサズ 温病ハ内由リシテ外ニ達シ 血分ヨリ出ズ 始メニ病悪寒セズシテ発熱ス 一メニ熱シテ口燥シ 咽乾イテ渴シ (楊如侯曰ク此レ伏気ヲ論ズ 若シ外感ノ温病ナレバ 亦微ニ悪寒有ル者ナリ) 脈多クハ洪滑 甚ダシキトキハ沈伏ナリ 此レ発表ト清裏ノ異ナル所以ナリ

凡ソ浮ニ診シ中ニ診シテ 浮大ニシテ有力 浮長ニシテ有力ナルモノ 傷寒ニ此ノ脈ヲ得バ 自ラ当サニ発汗スベシ 此レ麻黄・桂枝ノ証ナリ 温病ノ始メテ発コレモノハ 此ノ脈有リト雖 エドモ切ニ発汗スベカラズ 乃ワチ白虎・瀉心ノ証ナリ 死生ノ関頭ハ 総テ此レニオイト分カル、ナリ

凡ソ温病ノ内外ニ熱有ルモノノ 其ノ脈ノ沈伏シテ 洪ナラズ数ナラズ 而シテ 但ニ指下ニ沈伏シテ小急ノモノヲ 断ジテ誤リテ虚寒ト為スベカラズ 若シ辛温ノ薬ヲ以ッテ之レヲ治セバ 反ッテ其ノ熱ヲ益スナリ

傷寒ハ多ク脈ニ従イ 温病ハ多クハ証ニ従ウ所以ハ 蓋シ傷寒風寒ハ外ヨリ入リテ 脈ニ循ヒ

テ伝ワルナリ 温病ハ怫熱ノ内ニ熾ンナルモノノ 經ヨリ溢ル、モノナリ

凡ソ傷寒ノ始メハ太陽ヲ本トス 発熱シ頭痛ス 而シテ脈反ッテ沈ノ者ハ太陽ト曰フト雖ドモ 実ニハ少陰ノ脈見ワル 故ニ四逆湯ヲ用イテ之レヲ温ムナリ 温病ノ始発ノ若キハ 未ダ嘗ッテ 発熱シ頭痛セザルアラズ 而シテ脈沈瀯ニシテ小シク急ナルモノ見ワル 此レ伏熱ノ毒少陰ニ滞 ウリテ 陽分ニ発出スル能ワザルナリ 所以ニ身大熱シテ四肢熱アラザル者ヲ此レ厥ト名ブ 正ニ雜氣ノ怫鬱シテ 火邪ノ脈ヲ閉シテ伏サスナリ 急ギ咸寒大苦ノ味ヲ以ッテ大イニ清マシ大イニ之レヲ瀉セ 断ジテ誤リテ傷寒ノ太陽ノ始病ト為スベカラズ 反ッテ少陰脈ノ沈ヲ見テ四逆湯ヲ用イテ之レヲ温タム 之レヲ温タムレバ壞事スルナリ 又誤ッテ傷寒ノ陽厥ト為スベカラズ 慎ンデ下スベカラズ 而シテ四逆散ヲ用イテ之レヲ和ス 之レヲ和セバ則ワチ病甚シキナリ 蓋シ熱鬱シ亢シ閉シテ 陽氣四肢ニ交ワリ接スル能ワズ 故ニ脈沈ニシテ瀯リ 甚シクバ六脈俱ニ絶スルニ至レリ 此レ脈厥ナリ 手足厥冷シテ 甚シクバ通身ニ至リテ冰涼タリ 此レ体厥ナリ 即チ仲景ノ所謂陽厥ナリ 厥浅ケレバ熱マタ浅ク 厥深ケレバ熱マタ深シ 是レナリ

之レヲ下スニ断ジテ遅ナルベカラズ 真見ワレテ守定ラズ通樞達變ナル者ナリ 以ッテ語ルニ 足ラズトハ此レナリ (吳錫璜曰ク：王士雄ノ説：沈細ノ脈ト謂ウモノ 亦熱邪ニ因リテ閉塞シテ 然カラシムルアリ 形症ノ実ノ者ハ 之レヲ下シテ生ズベシ 未ダ陰脈ノ見ワル、ヲ以ッテ其ノ 必死ヲ断ズルヲ概スベカラズ 凡ソ熱邪ノ壅遏シテ 脈ノ多ク細実遲瀯ナルハ 証ヲ按ジテ清解ス 自カラ滑数ノ形ワルルモノ 内傷病ノ涼薬ヲ服シテ脈ノ数ヲ加エテ虚ヲ為スモノニ比セザルナリ 又馬元儀謂ウ 三陽症ニモ亦脈微弱ニシテ起タザル者有リ 邪熱ノ抑遏シテ 外達スル事 得ザルヲモッテナリ 待チテ其ノ熱清ムレバ 則ワチ脈自カラ起コルナリ 陽衰エテ脈微ナリト 謂ウコト勿レ 二公ノ論脈タルヤ 栗山ノ前説ト均合ス 乃ワチ經驗スルコト日ニ日ニ久シ 確切タリ不易ノ理解 医タル者当ニ切ニ之レヲ記スベシ)

凡ソ温病ノ脈中ニ診テ洪長滑数ノ者ハ輕シ 重キトキハ脈ハ沈甚ダシキトキハ閉絶ス 此レ温病ト傷寒トノ脈ノ浮ト脈ノ沈ト異治トヲ辨ズルノ要訣ナリ

凡ソ温病ノ脈ノ 洪長滑数ノ緩ヲ兼ヌル者ハ易治ナリ 弦ヲ兼ヌル者ハ難治ナリ

凡ソ温病ノ脈ノ 沈瀯小急ニシテ 四肢厥逆シ 通身シテ冰ノ如キ者ハ危フシ

凡ソ温病ノ脈ノ 両手ニ閉絶シ 或ハ片手ノ閉絶スル者ハ危フシ

凡ソ温病ノ脈ノ 沈瀯ニシテ微 状ノ屋漏ノ如キ者ハ死ス

凡ソ温病ノ脈ノ 浮大ニシテ散 状ノ釜沸ノ如キ者ハ死ス

按ズルニ傷寒，温病ハ 必ズ須ベカラク脈ヲ診テ治ヲ施スベシ 脈ト証ノ相応ズル者ハ 則ワチ識別スルニ易スシ 若シ脈ト証ノ相応ジザル者ハ 却ッテ宜シク審ラカニ緩急ヲ察シテ 或ハ該サニ脈ニ從ウベシ 或ハ該サニ証ニ從ウベシ 務メテ脈ト証トノ両ツナガラ得ルコトヲ要ス 即ワチ表証ノ脈ノ浮セザル如キ者ハ 汗シテ解スベシ 裏証ノ脈ノ沈マザル者ハ 下シテ解スベシ

邪氣ノ微ナルヲ以ッテ 抑鬱セル正氣ヲ牽引スルコト能ワズ 故ニ脈応ジザルナリ 下痢ノ脈実シテ 病癒ユル者有リ 但シ証ノ減ズルヲ得テ 復タ脈ノ実スル有ルハ 乃ワチ天年ノ脈ナリ

又脈法ノ辨ニ 洪滑ノ者ヲ以ッテ 陽ト為シ実ト為ス 微弱ノ者ヲ以ッテ 陰ト為シ虚ト為スハ 問ウコトヲ待タザルモノナリ 然シテ 仲景ノ曰ク脈ノ浮大ノ者ノ如キハ 氣実血虚ナリト『内経』ノ曰ク 脈ノ大ナルコト四倍以上ヲ関格ト為シ 皆真ノ虚ト為スト 陶氏ノ曰ク 浮沈大小ヲ論ゼズ 但ダ指下ニ無力 重按シテ全ク無キモノ 便ワチ是レ陰脈ナリ 此レ洪滑ノ未マダ必ズシモ陽ナリ実ナリト為サザルナリ 景岳ノ曰ク 其レ脈ノ有ルガ如ク無キガ如ク 附骨スレバ 乃ワチ見ワルハ 沈ノ微ナリ細ノ脱ナリ 乃ワチ陰陽ノ潜伏閉塞ノ候ナリト 陶氏ノ曰ク 凡ソ内外ニ熱有リテ 其ノ脈ノ沈伏シテ 洪ナラズ滑ナラズ 指下ニ沈瀯ニシテ小ニ急スルハ 是レ伏熱ト為ス 此レ微弱ノ未ダ必ズシモ尽ゴトク陰ナリ虚ナリトハ為サザルナリト

三 熱病辨脈 時人楊如侯

熱病ノ脈モ 亦其ノ經ニ随ヒテ之レヲ取ルナリ 太陽ニ発シテ脈浮緊 陽明ニ発シテ脈浮長 少陽ニ発シテ脈弦數 大率三陽ニ発スル者多ク 三陰ニ発スル者少ナシトハ 亦因ル所有ルナリ (治ハ温病条下ニ依ル 若シ表邪伝ヘテ三陰ニ進ム者ハ 治法ハ傷寒ノ条内ノ下証ト同ジ 若シ脈沈小ニシテ足冷ノ者ハ 亦陰ニ発ス 則ワチ難治ナリ)

大抵ノ熱病ハ温病ニ比シテ尤モ熱加ワルナリ 脈ハ洪大有力 或ハ滑數有力ヲ得レバ 乃ハチ病ト脈ノ相応ナリ 之レヲ治スベシト謂ウ 若シ細小無力ナレバ 之レヲ医シ難タシト謂ウ (人虚ノ脈弱キ者ハ 主ニ元氣ヲ扶ケテ 邪熱ヲ解スヲ兼ネテ 峻攻スベカラザルナリ) 表証ヲ治スコト在ル者ハ 治例ハ温病ト同ジナリ 若シ暑ヲハサミ 内ニ生冷ニ傷ラルルヲハサンデ 飲食停滞スルハ 証ニ随ヒテ之レヲ施治ス 中暑ト熱病ハ外証相イニ似ル 但ダシ熱病ハ脈盛ナリ 中暑ハ脈虚ナリ 之レヲ以ッテ之レヲ別ツナリ 『甲乙経』ニ云ウ 脈盛ニシテ身寒ノモノハ 之レヲ傷寒ニ得 脈虚ニシテ身熱ノモノハ 之レヲ傷暑ニ得ルト 蓋シ寒ハ形ヲ傷リテ氣ヲ傷ラズ 脈盛ナル所以ナリ 熱ハ氣ヲ傷リテ形ヲ傷ラズ 脈虚スル所以ナリ (此レ暑ト熱ヲ辨ズ 暴感ト伏氣ノ有リテ 脈ノ盛ント虚スルト異ナルナリ) 暑ト喝トハ脈虚ニシテ 面垢ツキ自汗シテ煩渴ス 静ニシテ熱心脾ヲ傷ルヲ中暑ト為ス 夏ノ熱病ト相イニ似ル 但シ熱病ノ脈ハ洪緊ナリ 中暑ノ脈ハ細數ニシテ沈ナリ

動ニシテ熱シテ太陽ヲ傷ルモノヲ中喝ト為ス 脈浮ニシテ夏ノ傷風ニ似ル 但ダ汗出テ惡風ス 身熱シテ渴セザル者ハ 傷風ナリ 身熱シテ渴スル者ハ 中喝ナリ (后人ノ所謂中暑ハ 多ク夏月ノ陰証ヲ指シテ言ウ)

夏月ニ四証有リ 傷寒ト傷風ハ 脈証相イニ見ワルナリ 中暑ト熱病ハ 疑似ニシテ明カシ難タシ 若シ脈緊ニ惡寒スルモノ 之レヲ傷寒ト謂ウ 脈緩ニ惡風スルモノ 之レヲ傷風ト謂ウ 脈盛ニ熱モ壯ナルモノ 之レヲ熱病ト謂ウ 脈虚シ身熱スルモノ 之レヲ傷暑ト謂ウ 此レヲ以ッテ之レヲ別ツナリ

熱病一二日 瀉利シ腹滿シテ熱甚ダシキ者ハ死

三四日 目昏ク譫語シ 熱甚ダシク脈ノ小ノ者ハ死

五六日 舌本焦ゲ黒ク 燥渴スル者ハ死

七八日 衄血シ吐血シ下血シ 燥熱シテ脈大ノ者ハ死

八九日 瘧ヲ発ッシテ昏沈ヲ兼ヌル者ハ死

凡ソ熱病ノ脈 促・結・伏・沈・小ナルハ 皆難治ナリ 熱シテ汗ヲ得ズ 脈躁急ノモノ 亦難治ナリ 已ニ汗ヲ得テ 熱反ッテ盛ンニ 脈躁急ノモノハ死ナリ

四 暑病辨脈 清沈金鰲

仲景ノ曰ク 傷暑ハ脈虚ト 又曰ク 脈虚シ身熱スハ 之レヲ傷暑ニ得ト 『脈訣』ニ曰ク 暑ハ氣ヲ傷ル 脈虚ス所以ナリ 弦・細・芤・遲 体状ニ余無シト 『三因』ニ曰ク中暑ノ脈陽弱ク陰虚シテ 微ニ遲ナルハ芤ニ似ルト 『本事』ニ曰ク 暑ノ脈ハ弦・細・芤・遲トハ 何ゾヤ 蓋シ寒ハ形ヲ傷リ 熱ハ氣ヲ傷ル 氣傷ルレバ則ワチ氣消ス 而シテ脈虚弱ナリ 所以ニ弦・細・芤・遲ナリ 皆虚脈ナリト 『正伝』ニ曰ク 暑ノ脈ハ虚シテ微弱 或ハ浮大ニシテ散 或ハ隠レテ見ラワレズ 夫レ微弱ニシテ隠ニ伏スモノハ 皆虚ノ類ナリト 『活人書』ニ曰ク 中暑ト熱病ハ相イニ似ル 但ダ熱病ハ脈盛 中暑ハ脈虚 此レヲ以ッテ之レヲ辨ズト 張鳳達曰ク 〈脈理論〉ニ劉復真云ウ 暑ノ脈ハ虚ニシテ微弱 之レヲ按ズレバ無力ナリ 又脈来タルヤ隠伏シテ 弦・細・芤・遲ナリ 皆暑ノ脈ナリト 脈虚シテ身熱ハ 之レヲ傷暑ニ得 中暈ハ脈虚シテ微ナル者是レナリト

寒病ハ伝経ス 故ニ脈ハ日ニ日ニ変ジ 温熱ハ伝経セズ 故ニ変ゼズ 寒病ノ浮洪ニ有力ナルハ易治 芤細無力ナルハ難治 無脈ハ不治 温熱ハ然ラザルナリ 温ニハ一ニ部ニ無脈ノ者有リ 暑熱ニハニ三四部ニ無脈ノ者有リ 被火ノ逼マル所ニシテ伏シ 絶エテ無キニハアラザルナリ 病ニ於テ妨ゲ無ク 之レヲ攻ムルモ亦易シ 経ニ照ラシテ辛寒ヲ用チウ 火散ジ脈起コレバ病愈ユルナリ 蓋シ温熱ノ病ノ発ルヤ 一二経ニ在リテ 始終此レニ在リテ 更ニ別経ニ伝・セザル者ニシテ 其ノ一二経ノ或ハ洪数ナレバ 則ワチ別経弱ク且ツ伏スナリ 経絡ニ依リテ之レヲ調ウレバ伏スル者ハ起コリ 洪ナル者ハ平トナレバ 乃ワチ愈ユルノ微ナリ (鰲按ズルニ 此ノ篇ニ言ウ熱病ハ 即ワチ暑病ヲ指シテ言ウ 伏寒ノ夏ニ発スルノ熱病ヲ謂ウニハアラザルナリ)

五 湿病辨脈 時人楊如侯

脈沈ニシテ緩 沈ニシテ細 微ニ緩ナル者ハ 皆中湿ナリ 脈浮ハ風湿 脈浮虚シテ濇ナル者ハ 寒湿 脈来タルコト滑疾 身熱シ 煩喘シ 胸滿シ 口燥キ 黄ヲ発スル者ハ 湿熱 脈洪ニシテ緩 陰陽両虚スルハ 湿熱自カラ甚ダシ 脈洪ニシテ動ナルハ湿熱ノ痛ヲ為スナリ 脈浮ニシテ緩ナルハ 湿ノ在表ナリ 脈沈ニシテ緩ナルハ湿ノ在裏ナリ

或ハ弦ニシテ緩 或ハ緩ニシテ浮ハ 皆風湿ノ相ヒ搏ツナリ

六 燥病辨脈 時人楊如侯

脈緊ニシテ濇（燥金ハ収斂ヲ主サドリ 其ノ脈ハ緊濇）或ハ浮ニシテ弦 或ハ・芤ニシテ虚
又脈ノ弦ハ風燥ナリ 脈ノ洪ハ熱燥ナリ 脈緩ハ土ノ燥ナリ
脈濇ハ血ノ燥ナリ 脈ノ遅ハ寒燥ナリ

以上で脈を専ら論じる部分は終り。